

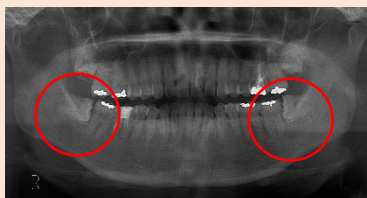
親知らずは、前から数えて8番目に生えてくる歯のことで、10代後半から20代前半に生えてきます。
親知らずはすべての人に生えるわけではなく、全く生えてこない人もいます。
すべての親知らずは抜かないといけないのでしょうか。なぜ、腫れたり、虫歯がしやすいのでしょうか。
歯を矯正する場合は親知らずを抜いた方が良いでしょう。
今回は、親知らずについて、症例を紹介しながらお話していきましょう。

症例1 41歳 女性

主訴: 下の左右親知らずがたまに腫れる。



右下親知らず



レントゲン写真



左下親知らず



抜歯した歯

お口の中の状態: 下の左右の親知らずが横に埋まっています、周りの歯肉が少し腫れています。

治療: 下の左右親知らずは横に生えていたので粘膜を切開して、歯を分割して抜歯しました。

解説: 親知らずが横に生えていて頭が少し出ているので、そこに汚れがたまり、歯肉の腫れを繰り返していました。

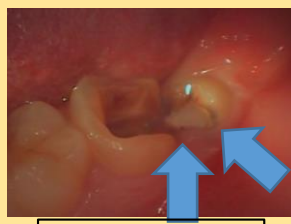
このように歯ブラシが届きづらく汚れがたまりやすい親知らずは、早い時期に抜いた方が良いでしょう。

症例2 23歳 男性

主訴: 左下の歯が痛い。



レントゲン写真



左下親知らず



歯を抜いた後、糸で縫合します

お口の中の状態: 左下の親知らずと7番目の歯が虫歯で穴があいています。

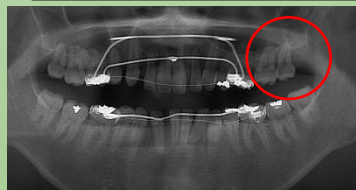
治療: 親知らずは抜歯しました。その後、7番目の歯の虫歯の治療をする予定です。

解説: 親知らずが横に生えていると、親知らずだけではなく、その前の歯も虫歯になりやすいです。

親知らずが邪魔して磨きづらい場合は、早めに抜いておいた方が良いでしょう。

症例3 29歳 女性

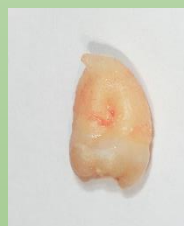
主訴: 歯の矯正治療のため、親知らずを抜きたい。



レントゲン写真



左上親知らず



抜歯した歯

お口の中の状態: 矯正治療の途中で親知らずが生えています。

治療: 上下左右の親知らずは抜歯しました。

解説: 歯の矯正治療を始める場合は親知らずがあると、歯を押して後戻りする可能性がありますので、親知らずは早めに抜いておいた方が良いでしょう。

まとめ

親知らずは、真っ直ぐ正常に生えていてしっかり歯ブラシできれば抜かなくても結構です。しかし、親知らずが横に生えていたり、埋まっていたり歯ブラシができませんと、虫歯になったり歯周病になってしまいます。そういう場合は早めに抜いた方が良いでしょう。歯の矯正をする場合も後戻り防止のため抜いておいた方が良いでしょう。